

筑後川水系における水資源開発基本計画 の全部変更に関する筑後川部会での審議経過

令和4年11月16日

国土審議会 水資源開発分科会 筑後川部会

筑後川水系における水資源開発基本計画の全部変更にかかる審議経緯

- 令和4年2月1日 国土交通大臣から国土審議会長へ意見聴取
「筑後川水系における水資源開発基本計画の変更について」 【根拠：水資源開発促進法第4条第5項において準用する同条第1項】
- 令和4年2月9日 国土審議会長から水資源開発分科会長へ付託
「筑後川水系における水資源開発基本計画の変更について」 【根拠：国土審議会運営規則第7条第1項】
- 令和4年2月15日 水資源開発分科会長から筑後川部会長へ付託
「筑後川水系における水資源開発基本計画の変更について」 【根拠：水資源開発分科会における部会設置要綱】

【筑後川部会：筑後川水系における水資源開発基本計画の変更に係る調査審議】

(審議1回目)

- 令和4年3月8日 第9回筑後川部会
リスク管理型の水資源開発基本計画（説明）、筑後川水系の概要

(審議2回目)

- 令和4年6月8日 第10回筑後川部会
第9回筑後川部会における主な意見、現行計画の総括評価（案）、
関係県における渇水・大規模自然災害・施設の老朽化に対する取組

(審議3回目)

- 令和4年7月29日 第11回筑後川部会
第10回筑後川部会における主な意見、水需給バランスの点検結果、次期計画（骨子案）

(審議4回目)

- 令和4年9月12日 第12回筑後川部会
第11回筑後川部会における主な意見、次期計画（素案）

(審議5回目)

- 令和4年10月21日 第13回筑後川部会
第12回筑後川部会における主な意見、次期計画（案）

水資源開発分科会にて、「筑後川水系における水資源開発基本計画」の全部変更（案）について審議

国土審議会水資源開発分科会筑後川部会 委員名簿

特別委員	小浦 久子	神戸芸術工科大学芸術工学部教授
特別委員	立川 康人	京都大学大学院工学研究科教授（部会長）
特別委員	辻村 真貴	筑波大学生命環境系教授（部会長代理）
特別委員	増子 敦	元東京都水道局長
専門委員	後藤 祐輔	（一財）日本気象協会事業本部社会・防災事業部 担当部長
専門委員	納富 昌子	RKB毎日放送（株）エグゼクティブ・アドバイザー
専門委員	平松 和昭	九州大学大学院農学研究院教授
専門委員	矢野 真一郎	九州大学大学院工学研究院教授
専門委員	山本 早苗	常葉大学社会環境学部准教授

（敬称略・五十音順）

筑後川部会における審議の概要 第9回(審議1回目)

【審議内容】

- ・ リスク管理型の水資源開発基本計画（説明）
- ・ 筑後川水系の概要

○筑後川水系の概要

※注 第9回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項 目	主な意見
関連する他計画等との関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ (ダム等の)事前放流が空振りだった場合の、代替水源の確保についても利水面のリスクといえるのではないか。 ○ 単なる普及啓発の一環ではなく、上流から下流に至る一体的な流域マネジメントの位置付けを議論することも必要。 ○ 重要施策(Society5.0、カーボンニュートラル等)との関連について、意識して議論していくべき。
ハード対策とソフト対策の一体的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模災害や大規模な事故について、どこまでをリスクとしてみているのか。 ○ 大規模自然災害を対象としたタイムラインの策定が必要ではないか。
気候変動リスクへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気候変動による渇水への影響はどのように考えているか。
地域の実情に応じた配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火山の噴火に伴う水質への影響について、リスクとして考慮する必要があるのではないか。 ○ 筑後川の水を水系外で利用する人口が多いことが、本フルプランエリアの特徴。渇水時の連携のあり方など、課題があれば教えて欲しい。 ○ 筑後川水系は、既に農地の集積が全国平均よりも高く、今後10年程度では農業用水の大きな需要量の変化はないと思うが、取水期間等の変化を考慮した水供給も考える必要がある。

筑後川部会における審議の概要 第10回(審議2回目) (1/2)

【審議内容】

- ・ 第9回筑後川部会における主な意見
- ・ 現行計画の総括評価 (案)
- ・ 関係県における渇水・大規模自然災害・施設の老朽化に対する取組

○現行計画の総括評価 (案)

※注 第10回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項 目	主な意見
需要の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ○ (日最大取水量の実績値で)特異な値が出た場合、それをリスクとみなすのか、異常値としてみなすのか見極める際の考え方について伺いたい。確率的なものがないと判断できないと思われるが、何か客観的な指標が必要ではないか。 ○ 異常低温に伴う凍結による漏水については、バルブ操作により管理することで制御できるという点を踏まえ、異常値として扱い、次期計画から除くのが正しいのではないか。 ○ 雨水利用が盛んになったことにより、都市活動用水有収水量が伸びなかったという見方はできないか。
ハード対策とソフト対策の一体的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設の老朽化に伴う事故事例を収集し、それに対応したタイムラインや対応策に関する指針について検討する必要があるのではないか。
地域の実情に応じた配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 担い手への農地の集積・集約化、農家の経営規模の拡大が進むことにより、かんがい期間や農業用水の利用形態が変化することが想定されるが、このことに対する評価も検討しておく必要があるのではないか。
既設ダム群の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既設のダム群を連携させて、それぞれのダムが持つ利水容量と治水容量を振り分け最適化することで、流域全体として、さらにダムの効果を最大限に発揮することができるのではないか。

筑後川部会における審議の概要 第10回(審議2回目) (2/2)

○関係県における渇水・大規模自然災害・施設の老朽化に対する取組 ※注 第10回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項目	主な意見
【各県の取組】 取水施設の緊急点検	○ 取水施設の緊急点検について、その結果や対応策について、積極的に広報して頂きたい。
【各県の取組】 代替水源としての地下水の利用	○ 危機時における代替水源としての地下水の利用について、既存のルールがあるか伺いたい。
【福岡県の取組】 海水淡水化施設	○ 海水淡水化施設の耐用年数について伺いたい。また、福岡地域の水供給量に対しどの程度の割合を占めるのか。
【各県の取組】 事業継続計画	○ 水の確保に関する事業継続計画の策定状況と内容について伺いたい。

筑後川部会における審議の概要 第11回(審議3回目) (1/2)

【審議内容】

- ・ 第10回筑後川部会における主な意見
- ・ 水需給バランスの点検結果
- ・ 次期計画（骨子案）

○水需給バランスの点検結果

※注 第11回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項目	主な意見
需要の見通し	<ul style="list-style-type: none">○ (工業用水補給水量の想定において)基礎資材型、生活関連型の補給水量と製造品出荷額の相関に関し、製造品出荷額のあるところから補給水量に幅や急激な増加がみられることを考慮しても誤差範囲に収まる程度なのか。○ 佐賀県の工業用水の高位が急激に伸びているが、この要因は何か。○ 「危機的な渇水時の対策」の供給側のソフト対策について、供給可能量と具体例を教えてください。
供給可能量	<ul style="list-style-type: none">○ 気候変動の影響を供給側の予測に反映させていく予定か。いつ頃取り組んでいく見込みか。
水需給バランス	<ul style="list-style-type: none">○ ダムが完成して長期間の需要実績があれば、ダム等がある状況から評価する方法もあるのではないか

筑後川部会における審議の概要 第11回(審議3回目) (2/2)

○次期計画（骨子案）

※注 第11回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項目	主な意見
前文	<ul style="list-style-type: none">○ 流域外の需要も満たすため、流域外導水していること、ダム群連携をはじめとした既設ダム群の有効活用による水資源の開発を行っていることを、筑後川水系の特徴として、前文に記載できないか。
ハード対策及びソフト対策の一体的な推進	<ul style="list-style-type: none">○ クリークの防災への活用を記載できないか。流域治水の先行例になりうる。○ 平時のコミュニケーションがリスク管理において重要であることを記載できないか。○ 節水化に関し、過去の経験や節水意識の奨励による、家庭内での風呂水の活用などのソフト面が大きいことも記載すべき。
気候変動リスクへの対応	<ul style="list-style-type: none">○ 日本全域の河川流量のシミュレーションを行い、渇水流量のデータを統計処理し得られた将来の変化率を、需要と供給の予測に使用するという必要もある。○ 将来的に気候変動条件下で降水量の総量が増えたとしても、短時間雨量が多いと地下水の涵養自体は減る可能性も指摘されている。そういうことも含めて、今後、議論していく必要があると感じている。

筑後川部会における審議の概要 第12回(審議4回目)

【審議内容】

- ・ 第11回筑後川部会における主な意見
- ・ 次期計画（素案）

○次期計画（素案）

※注 第12回筑後川部会の意見を事務局で要約・分類。

項 目	主な意見
前文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前文の筑後川の特徴について、もう少し具体的に記述すれば、地域性等をより理解しやすくなると思う。 ○ 前文に、筑後川らしい地域性がでるような記載を加えることはできないか。 ○ 文章が長く読みにくいため、検討して頂きたい。 ○ 水循環基本計画の改定について、前文に記載することはできないか。 ○ 淀川水系で記載していた「物質循環系」という表現を削除したのは、どのような理由からか。
関連する他計画等との関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「クリーク等の有効活用」は、治水対策として記載しているのであれば「事前放流等既存ダムの有効活用等」とまとめて記載する方が良いのではないか。 ○ クリークや海水淡水化施設の効用は、非常に微々たるものであるため、相対的にみると、ここに記載するのは無理があるのではないか。
ハード対策とソフト対策の一体的な推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「調整池・海水淡水化施設の活用」について、どの項目に当てはまるのか、位置づけを明確にできないか。 ○ 「対策等を時系列で定める」というように「時系列で」という表現を入れることで、分かりやすくなるのではないか。

筑後川部会における審議の概要 第13回(審議5回目)

【審議内容】

- ・ 第12回筑後川部会における主な意見
- ・ 次期計画（案）

事務局から説明した次期計画（案）のとおり了承。筑後川部会全体を通じた委員からのコメントは以下のとおり。

※注 第13回筑後川部会のコメントを事務局で要約・分類。

項 目	主なコメント
筑後川水系の特徴	○ 筑後川水系の特徴（歴史をはじめ、流域外導水、ダム群連携、有明海等）が計画本文にわかりやすく盛り込まれており、筑後川らしいフルプラン案になっていると感じる。
気候変動リスクへの対応	○ 気候変動リスクについての知見収集を行い、次期計画にさらに反映していただきたい。